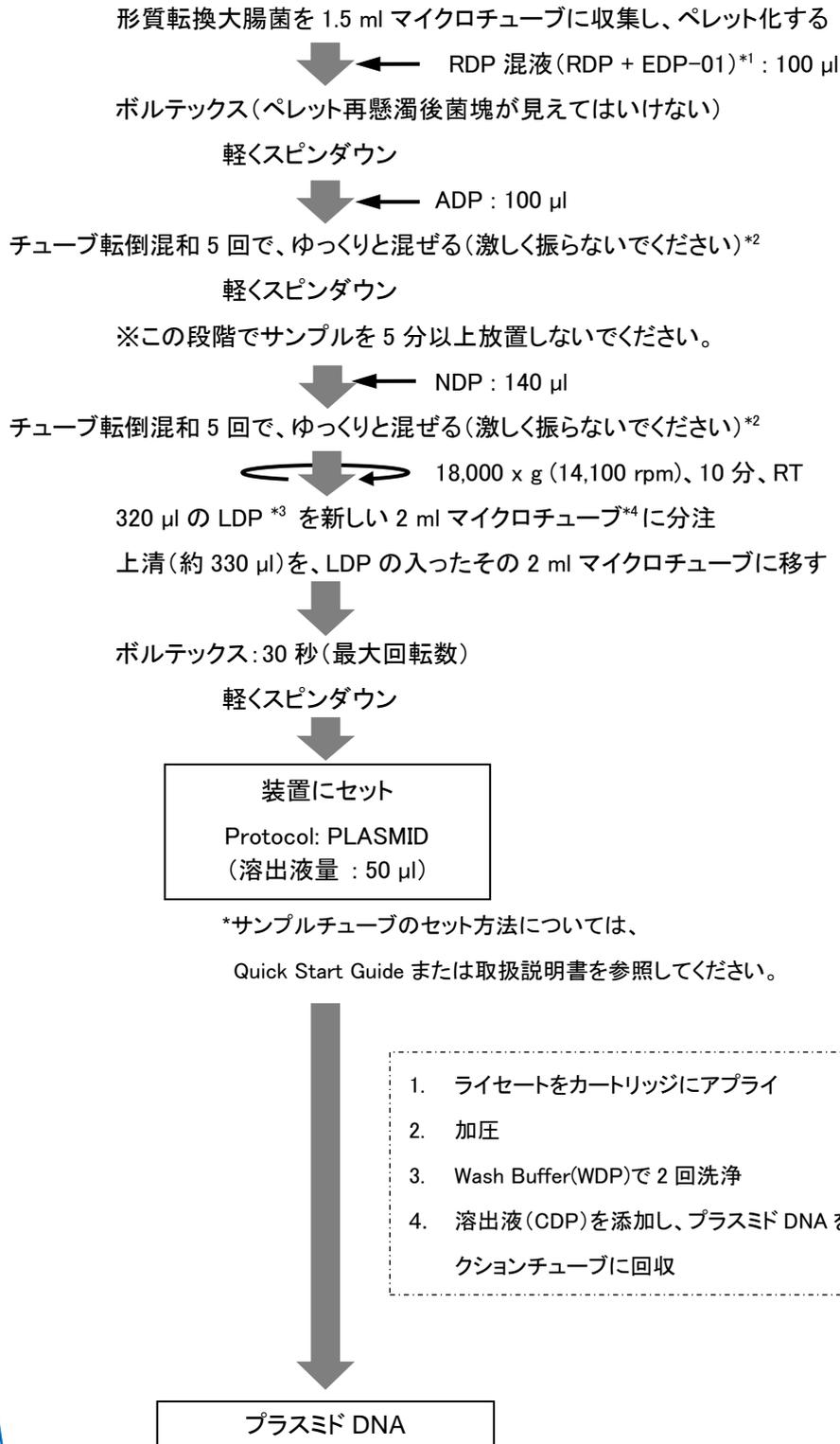


DF-16

自動処理_大腸菌からのプラスミド DNA 分離

プロトコル



*1 分離を始める前に、EDP-01 の全量を RDP ボトルに添加し、よく混ぜてください。RDP 混液を貯蔵する場合は、冷蔵 (2-8°C) 保存し、6 ヶ月以内に使用することを推奨します。

*2 ADP または NDP 添加後直ぐにチューブを 5 回転倒混和で混ぜてください。激しい混合はゲノム DNA の多くの共精製を起します。混合がゆっくり過ぎると液体の不十分な混合が起こり、プラスミド DNA の収量低下を生じます。

*3 使用前に 44 ml の >99% エタノールをボトルに添加し、ボトルの穏やかな転倒混和でよく混ぜてください。

*4 推奨のマイクロチューブ
#BM4020 (ビーエム機器)
#72.695.700 (SARSTEDT)
#72.695.500S (SARSTEDT)

サンプルの種類・保存条件などによっては分離できない場合があります。
データに関しては保証しておりません。
分離した核酸には目的以外の核酸 (例: DNA 分離には RNA) が含まれています。

結果

■ プラスミド DNA の収量 / タンパク質の混入 : A260/280
/ カオトロピック塩の混入 : A260/230

キット	A260/280	A260/230	収量	S.D.
QuickGene	1.98	2.23	29.5 µg	4.07

N=4

共通プロトコルサンプル

フォスミド